SANJO ROTARY CLUB
三条ロータリークラブ 週報 No. 37
2021.5.19(No.3082)

ロータリーで良いことをしよう

第2560地区ガバナー／佐 藤　真
会　　長／野崎喜一郎
会長エレクト／歸 山　肇(クラブ奉仕A)
副　会　長／松 永 一 義
幹　　事／渡 辺 良 一
S　A　A／五十嵐博宣
会　　計／柳 取 崇 之
直 前 会 長／若槻八十彦

例会日／毎週水曜日12:30～
例会場及び事務局／
　三条市旭町2-5-10　三条信用金庫本店内
例会場／TEL 34-3311
事務局／TEL 35-3477　FAX 32-7095
E-mail：sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
http：//www.soho－net.ne.jp/~rotary/
(~はshiftを押しながら“へ”のキーを
押してください)

■本日の出席会員数:59名中39名
■先々週出席率:86.44%

【先週のメークアップ】
［5.13］加茂RCへ
・渡辺勝利さん、山田富義さん
［5.13］三条ローターアクトクラブへ
・落合孝夫さん、相場弘介さん

ロータリーは機会の扉を開く
2020～2021年度国際ロータリーのテーマ

会 長 挨 拶
「岡山県」

野崎喜一郎 会長

三条祭りが今年も中止になりました。鯛の刺身、川マスの焼き物、煮しめ等がこの季節のご馳走です。皆さん食べられたでしょうか。

さて、最後に行った県が岡山県です。2012年、ヨット部のOB会があり岡山駅に集合となりました。新幹線の乗り継ぎで行ったのです。東京駅から「ひかり」の指定席を取りました。A席が取れたので埼玉から新幹線で来る後輩に電話したら同じ車両の同じ列のC席を取ったと電話が来ました。この様に指定して席が取れるとは思いませんでした。東京からB席が空いているので楽々と酒を飲みながら旅を楽しみました。岡山駅に到着して岡山空港に行き飛行機で来る人を拾ってバスで出発しました。瀬戸中央自動車道に入りました。昼食を何処で食べるのかと思っていましたら、岩黒島IC手前でバスを止めました。インターの所で人が待っていてゲートを開けてくれました。島民だけが利用できるICだそうです。ループ橋を降りていくと民宿に着き、そこが昼食の場所でした。

大皿に山盛りの刺身、60cm以上は有りそうな鯛の塩焼き。もちろんお酒を飲みながら料理を堪能しました。見ただけで

食べきれない量でした。この島は鯛やチヌが釣れるので釣りを楽しむ人が多く来る島なんだそうです。岩黒島に瀬戸中央自動車道の橋脚が有るので、80人程しか住んでいない島ですが、島民が利用できるようになっているそうです。この様な特例があるのに驚きました。

岡山城を見学し、日本三大庭園の一つ後楽園も見学しました。水戸の偕楽園、金沢の兼六園は既に行った事がありますので、これで日本三大庭園をすべてみる事が出来ました。これで47都道府県をすべて行ったのですが、その後二回岡山県に来ることになるとはこの時全く思っていませんでした。3回後楽園を見学し、倉敷市では大原美術館に2回行くことになりました。今までチャンスが無かったのが嘘のようです。

早川滝徳さん
　よろしくお願いします。
衛藤泰男さん
　本日もよろしくお願いします。
丸山行彦さん、　中條克俊さん、　小越憲泰さん、
金子俊郎さん、　小出子恵出さん、石橋育於さん、
若槻八十彦さん、伊藤寛一さん、　中村信一さん、
歸山　肇さん、　杉山幸英さん、　高橋　司さん、
五十嵐博宣さん、石黒良行さん、　渡辺勝利さん、
石倉政雄さん、　明田川賢一さん、松永一義さん、
斎藤弘文さん、　松永隆夫さん、　落合孝夫さん
　寒河江会員、本日は卓話ありがとうございます。お話楽しみにしております。

５月１９日分　￥　　29,000
今年度累計　￥1,211,000

幹事報告

渡辺良一 幹事

◎佐藤ガバナー事務所より
「ガバナーレター発行のお知らせ」

ニコニコBOX

野崎喜一郎会長
　毎日変化の無い日々が続いています。ロータリーの例会が唯一の楽しみであり、変化です。
渡辺良一さん
　寒河江さんの卓話楽しみにしています。よろしくお願い致します。
小林敬典さん
　日々感謝です。
安達俊明さん
　長岡市も高齢者「ワクチン」は6月中に2回完了します。全ての人が早く完了しますように。
中林順一さん
　毎日雨降りで、折角咲き始めた薔薇の花に水が入って、花も私もうなだれています。
小林吾郎さん
　燕岳に登ってきました。北アルプスの女王の名にふさわしい山容でした。

ロータリー米山記念奨学会より

小林敬典 会員へ
「第14回 米山功労者メジャードナー感謝状」
中林順一 会員へ
「第1回 米山功労者感謝状」

Rotary
米山功労クラブ
第35回 米山功労クラブ
三条ロータリークラブ殿
多額のご寄付に対し心から感謝の意を表します
2021年4月
公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
理事長　齋藤直樹

「卓　話」

「東日本大震災から10年
～電気の今昔ものがたり～」

寒河江勝俊 会員

東北電力ネットワーク新潟県央電力センターの寒河江でございます。

本日はこのような卓話の時間をいただき、誠にありがとうございます。

新型ウイルス感染症の収束がなかなか見えない状況の中、会員の皆様も非常に難しい事業運営を強いられているのではないかと思います。新潟県央電力センターにおいては、会議室等を利用した執務室の分散化、机上へのパーテーションの設置、換気の徹底など、感染防止対策を徹底して行い、引続きしっかりと電気の安定供給に努めてまいりたいと考えております。

そのような中、本日、約30分という貴重な時間をいただいているということで、精一杯お話ししたいと思いますので、宜しくお願いいたします。

本日お話しする内容は、1. 電気の歴史、2. 東日本大震災発生後の事業変化、3. 弊社事業収益拡大の取組み（PR）であります。

では、冒頭に私の自己紹介をさせていただきます。出身は山形県山形市で、三条市には単身赴任となっております。妻一人、子供4人の6人家族です。東北電力に入社したのは昭和61年、高田営業所に入社してから、約20年間、新潟県内、村上、三条、新潟、新津、の各事業所に赴任しておりまして、ほぼ一貫して配電業務に携わってきました。また、5年程前に東北ポールに出向して、電柱を作って売っておりました。会社人生の約半分が新潟ということで、言わばこちらは第二の故郷と思っております。三条市の勤務も約20年振りということで、大変懐かしく感じているところです。

写真は先日参加した彌彦神社春季神廟祭の風景ですが、こういった地域の行事に参加したり、周辺の温泉に行ったりするのがとても好きです。

好きと言えば、職業病だとも思いますが、電力の配電設備も大好きで、若い頃、日本最古の電柱が見たくて、バイクで函館に行ったこともあります。写真は日本最古のコンクリート製電柱で、函館市中心部、町名でいうと末広町、ルネッサンス末広というマンションそばに、大正時代の1923年10月（97年前）、当時函館地区の電気事業を行っていた函館水電会社の葛西技師が建柱されました。同時期に旧北海道拓殖銀行函館支店が、当時としてはモダンな耐火性洋風社屋を（現在のマンションの位置に）建築するのに合わせて、特別にコンクリート製としたとされています。木造円柱型電柱がメジャーだった当時として、四角コン柱は大変珍しいことでしたが、当時函館で頻発していた大火対策としては最適だったそうです。

それでは話をすすめまして、まず電気の歴史についてお話しします。

明治11年（1878年）3月25日、東京・虎ノ門工部大学校（現：東京大学工学部）の講堂にて、日本で初めて電気の明かりが灯され、これを記念して3月25日を「電気記念日」と定められました。

当時は式典において電池を使ってアーク灯を点灯させたもので、一般家庭への普及はしばらく後となります。新潟は東京に遅れること20年、明治31年に新潟市白山浦に火力発電所が完成して初めて電気の明かりが灯りました。次ページの絵は、明治15年、日本初の街路灯で、一般市民はこの時初めて電気の光を目にしたということです。これは電気の素晴らしさを宣伝することが目的で、このイベントは新発田出身の大倉喜八郎氏が中心となって行われたものです。

これは明治末から大正初期の一ノ町通りです。いわゆる大通りだと思われます。よく見ると道路の両脇に電柱が立っており、その上のほうに腕木が何本も付いているのが判ります。この腕木の上に電線が載っていたものと思われます。三条に電気がついたのは、明治44年のこととあります。はじめは大通りの何軒というほどだったそうです。当時、子供たちはわいわい騒ぎながら一軒一軒のぞき歩いたそうです。

周辺の町村では、村松、五泉、新津が明治42年に、加茂が三条と同じ明治44年に電気がついたようです。

現在の旭町の新潟県央電力センターが元からの場所で、明治44年に新潟水力電気という会社の三条出張所として開設されました。大正15年2月、現在の新潟県央電力センターの場所に変電所ができ、それが三条で初めての鉄筋建物だということです。その後どんどん鉄筋の建物ができていったようで、直後に西別院、二ノ町の第四銀行支店、それから一ノ町の郵便局の建物が出来たようです。

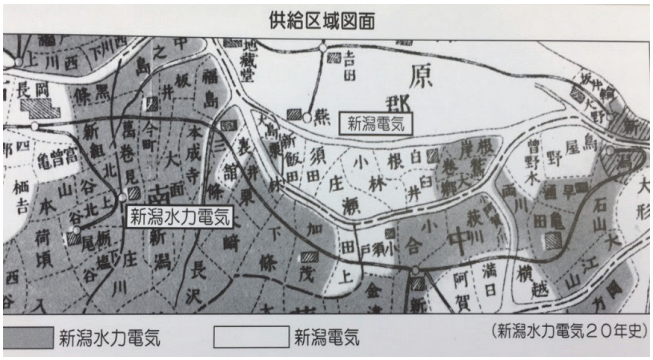
三条変電所（現在の営業所通用門の附近）

明治後期の産業の動力は人力と石油発動機が主流だったようです。明治の終わる頃三条町六ノ町鋏(はさみ)鍛(たん)工の渡辺吉次郎さんが、電気動力設備による研磨作業を始めたようです。残念ながら、本格的に使われ出すのは、関東大震災後の特需に忙殺されたころからとのことです。

昭和初期の供給区域図です。信濃川を挟んで東側が「新潟水力電気」、燕など西側は「新潟電気」の営業区域となっていたようで、当時は烈しい競争を繰り広げていたようです。

電気が使われだすと段々と停電が頻発しました。いわゆる電気の需要に供給が追いついていかない電力不足の状況と、送電設備等の脆弱性も相まって、停電が社会問題化してきます。こうしたことから、電力不足を解消するために、一斉に電気が使われないように代わり番こに地区毎の停電をさせて乗り切ったようです。当時は当たり前のように輪番停電しており、「電休日」と称して週2日電気が来ない日があったようです。

その間、電力会社は何とか電気をつけるために発電所を作り、送電線を作り、変電所を作っていたわけです。電気が暮らしを支え始めたことを電力マンはひしひしと感じて使命感に燃えて設備形成に励んだものと思われます。



先ほどお話ししたとおり、三条は新潟水力電気、燕は新潟電気が営業区域としてお互いがしのぎを削っていましたが、同じところに新潟水力電気の配電線と新潟電気の配電線がある二重設備となり、非常に無駄な設備構成となってきました。全国的には電力会社の資本が統合されて合併が進展しました。昭和5年には、新潟水力電気と新潟電気が合併し、新潟電力となりました。

1930年代は世界恐慌、昭和三陸大津波、冷害・凶作と地元経済界・庶民の暮らしを疲弊させる出来事が相次ぎました。そうした東北地方の疲弊に対する不満も背景として、昭和11年(1936年)、2.26事件が

勃発します。その結果、東北地方に対して政府としても何か手を打たなければならないとの機運が盛り上がりました。そこで2.26事件が起きたその年に、政府が出資して作ったのが「東北興業株式会社」と「東北振興電力株式会社」です。

特に東北振興電力は、定款に「東北地方の振興を図るため、同地方における電気事業を営むを以って目的とする」と明記されています。東北振興電力は設立から僅か5年で戦時体制のため統合されますが、その間、矢継ぎ早に14力所の水力発電所を建設するとともに、青森～福島に至る南北送電網の整備も行いました。こうして整備された電力網による電力の安定供給体制を売り物に、全国から数十社の企業誘致に成功しました。

殖産興業の旗振り役になるかに見えた東北振興電力も、束の間、設立から5年2ケ月でその歴史に幕を引くこととなります。日中戦争がきっかけとなって、民間の大手電力会社を国策会社一社に統合する電力国家管理法を制定され、東北振興電力は1941年に日本発送電株式会社に統合されました。

終戦後GHQの財閥解体により、日本発送電も解体されることとなりますが、なかなか案がまとまらず、難産の末、現在の9電力会社体制が1951年(昭和26年)5月に発足します。ここに現在の東北電力が誕生することになります。

重要なことは、東北振興電力が担った、新潟を含む東北地方の殖産興業、地域振興という目的を東北電力が受けついでいるということです。

創立以来の当社の基本的考え方は、東北の繁栄なくして当社の発展なしです。そして現在は「より、そう、ちから。」という企業グループスローガンを打ち出し、お客さまにより沿う、地域に寄り沿うを合言葉に、「より、そう、ちから。」活動を行っています。

さて、話を戻しますと、東北電力設立当初の会長は白洲次郎氏であります。吉田茂総理大臣の懐刀として日本国憲法制定などでGHQと堂々と渡り合い、威勢よく主張すべきは主張した人物として今でも人気があり、多くの本が出版されています。

文献には、「白洲会長は当時東北地方で開発可能な水力の4分の3を有していた只見川の水利権をめぐって、古くから権利を主張して徹底抗戦していた東京電力に対して、当時の野田卯一建設大臣を説得して、水利権を東北電力に切り替えるという超法規的措置を引き出した。これによって東北電力繁栄の基礎が築かれた。」とあります。

また、このほかにも、白洲会長は、当時としては画期的な3つの新兵器を当社に導入しました。山間佑辛地で雪が多いことから、イギリス製のジープ「ランドローバー」を昭和27年から200台導入しました。2つ目は送電線の建設保守のために業界で初めてヘリコプターを導入しました。3つ目は社内の電話回線としてマイクロ波無線を導入しました。我々の社内は今でも独自回線として各事業所を無線でつないでいますので、NTT回線が使えなくなっても社内回線が使えることが多々あります。以上のように白洲会長はまさに「東北電力の繁栄の基礎」を築かれました。

昭和26年に発足いたしました東北電力ですが、急速に伸びる電気の需要にいかに発電所を建設し、供給していくかが大きな課題となりました。国内の発電電力量は26年設立当時から毎年ぐんぐんと伸びて2010年には26倍にもなっています。この間、電気の供給をまかなうために水力から石油火力へ、オイルショック以降は原子力を含めた多様な電源を組み合われるエネルギーミックスの発電形態を志向してきましたが、東日本大震災以降原子力が停止し、現在では約9割が石油、石炭、ガスといった火力発電に依存している状況が続いています。

それでは、東日本大震災発生後の事業について話をさせていただきます。

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、太平洋側の各地で津波による甚大な被害が発生しました。

発生直後、最大約466万戸が停電していましたが、まず、火力発電所を再起動して、送電線の切り替えで順次発電容量にあわせて電力の供給を始め、3日後には80%の停電が復旧しました。8日後には約94%が復旧し、6月18日には復旧に着手可能な地域の停電はすべて解消しました。

被害がなかった各所から一斉に応援部隊が被災地に入り、一刻も早い電気の送電に昼夜を問わず全力で復旧にあたりました。延べ21万4千人、最大1日5400人の稼動で次々に復旧していきました。津波で被災したところでは宿泊施設などありません。車中泊や当社事業所の床に段ボウルを引いて、毛布に包まり寝ました。私は当時、秋田営業所におりましたが、同様に復旧に携わりました。

この東日本大震災が日本の電力事業に大きな環境変化をもたらしました。

それは、福島第一原子力発電所の事故を踏まえて、「世界で最も厳しいと言われる原子力規制基準の導

入」です。2番目は「再生可能エネルギーの導入促進」で、3番目が「電力システム改革」です。

まず、新しい原子力規制基準の導入です。

新たな原子力規制基準は福島第一事故の2年後に制定しましたが、まず、重大事故対策やテロへの対策を新たに規定しました。さらに、地震、津波、火山、竜巻といった大規模な自然災害などへの対応を今までより強化しています。この新規制基準をクリアーできないと原子力発電所は再稼動できないことになりました。

次は再生可能エネルギーの導入促進です。

この図は全国大の再エネ連系量の推移ですが、固定価格買取制度が開始した2012年以降、再エネの連系量の伸びが加速し、2019年9月末時点で、日本国内における太陽光・風力合計の連系量が約5,600万kWに到達しました。

震災以降、国は再生可能エネルギー、つまり太陽光、風力、水力、バイオマス、地熱の各発電について、積極的な導入をすすめるために、固定価格買取制度を震災翌年の2012年度から導入しました。例えば、太陽光発電であれば、国が定めた固定価格で電力会社が買取るかわりに、電力会社の売電価格との差額を賦課金として電力使用者から徴収する制度です。この制度ですと、再生可能エネルギーはどんどん普及は進みますが、普及が進むと電力会社が買取る価格と売電価格の差額の総額はどんどん膨らみ、賦課金の単価は上昇していきます。これが再生可能エネルギー導入促進の大きな課題の一つです。

もう一つの再生可能エネルギー導入促進の大きな課題は、余剰電力の発生に伴う、需給バランス面の課題です。

電気は貯めることができないため、時々刻々と変化する需要(消費量)に対し、常に供給(生産量)を一致させる必要があります。仮に需要と供給のバランスが崩れると、周波数が変動し、最悪の場合多数の発電機が運転できなくなり、大規模な停電に至るおそれがあります。

太陽光や風力といった再エネの出力は、気象条件によって大きく変動することから、常に火力発電等の発電出力を調整し、需要と供給のバランス維持を図っていますが、再エネの連系が拡大することにより火力発電等の発電出力調整だけでは対応が困難となります。

春・秋の軽負荷期において、気象状況により再生可能エネルギーが高出力となった場合には、出力調整が可能な火力発電を抑制しても、供給が需要を上回る(＝余剰電力の発生)可能性があります。このような場合には、国の「優先給電ルール」に基づいて、対策を実施しますが、それでもなお、東北エリアの余剰電力解消が困難な場合には、再エネ(太陽光・風力)の出力制御を実施する場合があります。弊社においては、何とか他の発電所出力調整で、出力制御を回避している状況です。

次は電力システム改革です。

先程もお話ししましたが、1951年(昭和26年)に現在の全国9電力会社体制が発足して以来、大き体制変化がなく、基本的に全国9電力会社体制のもと、ひとつの電力会社が発電、送電、配電、販売を行う垂直統合型の電気事業が行われてきましたが、①電力の安定供給の確保、②電気料金の最大限の抑制、③需要家の選択肢や事業者の事業機会の拡大を目的として、電気事業の改革が進められました。この、電力システム改革として電気事業法が改正され、2020年4月より送配電部門の中立性、公平性を一層確保する観点から送配電部門の法的分離が行われました。これに伴い、発電事業および小売電気事業を運営する「東北電力株式会社」のもと、送配電部門は「東北電力ネットワーク株式会社」として分社化されました。

分社化後も、停電が発生した場合は、地域を管轄する東北電力ネットワーク株式会社の各電力センターで復旧作業を行いますし、大規模な自然災害等により広域にわたる停電が発生した場合等は、東北電力ネットワーク株式会社は、東北電力株式会社と連携を図りながら、復旧対応を行ってまいります。

では最後に、弊社新規事業の早期実現および需要拡大への取り組みについてお話します。

弊社の課題の一つに企業収益力の向上があります。これは、将来、人口・世帯の減少や再生可能エネルギー導入拡大等から、長期的に収益力が低下していくという危機感からです。このため、弊社では、電柱などのネットワーク設備の有効活用による、地域の課題解決に向けたサービスを、グループ会社とも連携を図り、検討・実施し、送変電事業者ならではの強みを活かしながら、新たな収益を獲得していくこととしております。

参考に新規事業を何点か紹介いたします。

一つ目は、電柱設置型防犯カメラ「より、そう、カメラ」です。

この「電柱設置型防犯カメラ」は、東北電力ネッ

トワーク所有の電柱へ設置いただくことにより、公共スペースの防犯に寄与し、地域の安心・安全に貢献するものです。弊社グループ企業の東北送配電サービス株式会社が、「現場調査」、「各種申請」、「設置工事」、「保守管理」をワンストップで行うことで、お申込者さまの負担を軽減いたします。

次は、主に自治体様向けですが、「配電用地上機器ラッピング」の販売です。

この「配電用地上機器ラッピング」は、無電柱化エリアに設置している東北電力ネットワーク所有の配電用地上機器へ、「観光案内」「交通安全」「道路案内」等のメッセージやマップなどのラッピングを実施するものです。ラッピングのお申込みにあたっては、弊社グループの東北送配電サービス株式会社が設置・保守管理契約を承ります。なお、屋外広告物条例上、地上機器は広告表示禁止物件のため表示内容は自治体による公共的なものに限られます。

次に弊社の最近の取組みについてお話します。一つ目は、「東北電力ネットワーク停電情報通知アプリ」です。

昨年末から、停電に関する情報をお客さまにお知らせするスマートフォンアプリ「東北電力ネットワーク 停電情報」の運用を開始しました。本アプリでは、通知を受け取りたい住所情報をお客さまが登録することで、当該地域が停電した場合や、その地域が復旧した場合に、スマートフォンに自動的にお知らせ（プッシュ通知）します。登録は、弊社エリア内（東北6県と新潟県）で最大10地点まで設定できるため、ご自宅のほか、職場やご実家など、お客さまのニーズに合わせた選択が可能です。更には、各県における停電の発生状況を地図上に表示し一目で把握できるなど、視覚的に、わかりやすく停電情報をお知らせします。

停電の状況を速やかにお伝えするために、弊社ホームページにおいても停電情報を発信しています。東北6県および新潟県で発生している停電情報を、県別、市区町村・地区単位で公開しています。このほか、落雷情報や地震・台風をはじめとした災害時の対応の仕方など、防災にお役立ていただける情報も発信しています。公式 Twitterも開設しており、非常災害時の停電情報に加え、台風接近前には電気安全に関する注意喚起なども発信しています。なお、アプリのダウンロードは無料ですので、この機会に、ぜひ、ご活用ください。

また、この度、当社 YouTube 公式チャンネルを開設いたしました。同チャンネルでは、当社が発信する動画等をご覧いただけますので、ご参考にしていただければ幸いです。

これでお話しを終わりますが、本日の卓話のまとめをさせていただきますと、

①電気は、産業や人々の暮らしに大きな影響を与えてきた極めて重要なエネルギーです。弊社は引続き、電力の安定供給にしっかりと取組んでまいります。

②また、再生可能エネルギーの増加や電力システム改革等、様々な課題にも適切に対応してまいります。

③そして、これからも電力の安定供給に不断に取り組んでいくとともに、地域社会の振興にも果敢に挑戦していく。ということです。

以上、ご清聴ありがとうございました。

6月の行事予定

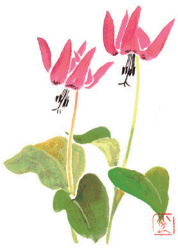
三条ロータリークラブ例会日

日	月	火	水	木	金	土
		1 ◆三条北RC クラブ休会 （記帳できます）	2 ◆三条RC 「会員卓話」 関　義実 会員	3 ◆三条東RC 「クラブフォーラム」	4	5
6	7 ◆三条南RC 「クラブフォーラム」 平松修之 会長エレクト	8 ◆三条北RC 「家庭会合報告会」 石川一昭 会長エレクト	9 ◆三条RC 「クラブフォーラム」 歸山　肇 会長エレクト	10 ◆三条東RC 「クラブフォーラム」	11	12
13	14 ◆三条南RC 「クラブフォーラム」 平松修之 会長エレクト	15 ◆三条北RC 「家庭会合報告会」 石川一昭 会長エレクト	16 ◆三条RC 「一年を振り返って」 野崎喜一郎 会長 渡辺良一 幹事	17 ◆三条東RC 「一年を振り返って」 本多昭一 会長	18	19
20	21 ◆三条南RC 「会長幹事慰労会」 （予定）	22 ◆三条北RC 「一年を振り返って」 石黒隆夫 会長	23 ◆三条RC 「会長幹事慰労会」 （予定）	24 ◆三条東RC 夜例会 「会長幹事慰労会」 （記帳できます）	25	26
27	28 ◆三条南RC クラブ休会 （記帳できます）	29 ◆三条北RC 夜例会 「会長・幹事・ SAA慰労会」 （記帳できます）	30 ◆三条RC クラブ休会			

※近隣RC例会変更のお知らせ！（記帳できます）

●加茂RC　6月17日（木）夜例会
●分水RC　22日（火）移動例会

記帳場所
加茂市産業センター
新潟大栄信用組合本店（11～14時）

次週例会　6月2日　「会員卓話」　関　義実 会員

次々週例会　6月9日　「クラブフォーラム」
歸山　肇 会長エレクト